

# 京都御猟場の御猟と写真資料

東 昇

## 1. 「仙洞御料の誉れの畑が、雲井迎えた猪御猟」

この歌は、大正 10 年（1921）波多野周造が作詞した「畑の節」である。雲ヶ畑の近世の仙洞御料の歴史と、近代の御猟場における皇族来訪の御猟が表現されている（『雲峰時報』、雲ヶ畑自治振興会、波多野周造、1968 年）。他にも「畑の深山に小雪が散れば、犬が跳びとび猪追いに」と、冬の猪猟の様子歌詞があり、当時御猟場は禁猟であったため御猟の可能性はある。波多野周造（明治 31 年（1898）生）は、宮内省京都御猟場監守長波多野富之助の息子である。京都府立農林学校（現京都府立大学）卒業後、大正 10 年 23 歳で雲ヶ畑村収入役、消防団長、戦後は雲ヶ畑村村長、同森林組合長、同自治振興会長、京都府林業懇話会長等に就任している。

周造は、早くから写真を撮影しており、10～27（21～30 頁）の昭和 3 年（1928）大嘗宮の御用材搬出に関わる一連の写真、昭和 10 年には台風災害記録の写真集『雲ヶ畑水禍のあと』（銀鈴社、雲ヶ畑自治振興会所蔵）を出版している。京都御猟場の御猟の写真も周造が撮影したと考えられる。

## 2. 御猟場の写真

京都御猟場は、明治 38 年～大正 12 年（1905～1923）、宮内省によって京都府愛宕郡雲ヶ畑村を中心に設置された。御猟場の監守長を勤めた波多野六之丞家には、御猟関係の文書・写真が多数存在する（東昇「波多野富之助と近代雲ヶ畑－林業・御猟場・志明院－」京都府立大学文化遺産叢書 19『京都雲ヶ畑・波多野六之丞家文書調査報告』17～24 頁、2020 年）。文書は宮内省主猟寮と御猟場との「往復綴」、御猟の立場（待機場所、写真 1）図の記録などはあるが、御猟の概略は不明である。

御猟については、明治 42 年に京都府山林会、京都府材木業組合連合会によって編纂された『京都府山林誌』第 8 章「狩猟」第 1「京都御猟場」に詳しい。まず「狩猟季節」として、つぎのように記される。

本御猟場ハ氣候適順ニシテ、嚴寒ノ侯ト雖トモ積雪平均尺内外ナルニ、丹波方面ノ該山岳ハ数尺ノ積雪ヲ常トス、故ニ該方面ヨリ時々御猟場内へ棲息ヲ移転シ来ル鳥獸多ク、本御猟場創設以来鳥獸ノ蕃殖頗フル繁盛ニシテ、最モ適良ノ好猟期ハ例年一月中ナルヲ以テ、再三前記状況報告調査ノ結果、寮頭ヨリ奏上御猟仰出サルハ、例年同月ヲ以テ狩猟ヲ開始サル

御猟場は気候がよく、丹波の山の積雪により鳥獣が移動してくるため、大変繁殖している。御猟は、鳥獣の状況調査の結果により、1月中に主猟寮頭から指示があるとする。そして具体的な「狩猟方法」は、つぎの通りである。

主猟官ハ各部署ヲ分チ、立場案内者ハ赤布、補助猟師ハ白布、勢子伍長ハ赤白混交布ヲ各腕ニ着シメ、各立場揃ハ喇叭ニ声ニシテ、現場各谷筋ニ陣ヲ張り、勢子追初メハ空砲三発、山頂ニ於テハ勢子猟犬（猟犬ハポインター）ヲ引連シ、峯通りヨリ大勢ヲ発シ、各猟犬ヲ適当ノ方面ニ放チ、獸類ヲ谷筋ニ追降セシム、此場合ニ於テ猪鹿等ノ獸類ヲ起シタルトキハ、直ニ空砲一発以テ各立場ニ於ケル各主猟官ニ警告ス、茲ニ於テ射撃戦開始サル、此場合ニ於テ若シ手負獸等アレハ、補助猟師之レヲ追撃打止メ呼笛五声ニシテ之レヲ警報ス、勢子追終レハ喇叭三声ニシテ射撃ヲ中止サル等狩猟方法ノ概況ナリトス

主猟寮から派遣される主猟官によって部署が決定され、各人が立場に到着するとラッパで合図する。勢子や猟犬が獲物を谷筋へ追い、空砲で主猟官に伝え射撃がはじまる。その結果、傷ついた獲物は補助猟師が仕留め、呼笛・ラッパの合図で猟全体が終了する。

### 3. 御猟の写真

波多野六之丞家文書のアルバム（文書追加 1-18、写真 2）には、1～14（72～78 頁）の大正 10 年 1 月に行われた朝香宮・北白川宮参加の御猟写真が現存する。1～7 は出発前であり、宿舍となった監守長宅などで撮影している。8～12 は猟の最中に撮影されており、昼食などの休憩・移動が多く、実際の猟中は 10 の立場待機のみである。猟は尾根など広範囲に分散し、動きも早く危険なため撮影が難しかったと考えられる。13・14 は狩猟後で、参加者の前には獲物となった鹿がたくさん写っている。写真を詳細に観察すると、当時の猟の服装や装備、実態が判明する。このような、皇族の御猟写真は、記念として参加者の家に残されている場合がある。15～19（79～80 頁）は御猟場の石碑など現存する文化遺産といえる。15 東郷平八郎揮毫の「忠魂碑」、16 織田主猟官により建立された「忠犬碑」、17～19 久邇宮や朝香宮が植樹した記念碑など、御猟来訪者と雲ヶ畑とのつながりを現在に伝えている。

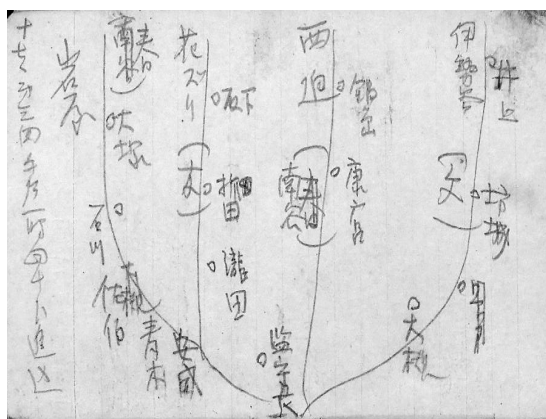


写真 1 立場の図。大正 8 年 1 月 17 日 3 回目の猟、左から 2 番目の花ズリに「殿下」とある。（波多野六之丞家文書 9-194 「手帳」）



写真 2 両宮の御猟の写真を 4 枚 1 組で貼り付けたアルバム。（波多野六之丞家文書追加 1-18）